

強烈寒波「孤立」におびえる集落

小院瀬見新聞

2026年2月号

小院瀬見新聞社

〒939-1764
富山県南砺市
吉見70番地
編集担当 中島健二
電話080-6359-3992

地区外への唯一道路 今冬も雪崩

第2の道は30年間通行止め

日本列島に今年1月後半から強い寒波が続々と襲来、南砺市の中山間地にある山里の小院瀬見は2月初めにかけて断続的に激しい降雪に見舞われ積雪が急増した。冬の間は集落外へ通じる唯一の経路となる市道・野地網掛線は今冬も雪崩が発生。通行遮断にまでは至らなかったが、2年続きの極端な大雪に孤立のリスクは高まっており、住民や地区外から農作業などに通う関係者からは抜本的な対策を望む声も上がっている。



冬はこれしかない集落外への市道を襲った雪崩
(2月1日13時30分撮影)

雪崩が起きたのは2月1日夕。福光温泉橋左岸の交差点から100ほど入った所で脇の崖から崩れ落ちた雪が道路をふさいでいるのを、午後6時半ごろに通るに当たって住民が確認した。かろうじて車が通過できる状態まで2日朝、市手配の除雪車が除去した。寒気が続いた2日から3日にかけても小院瀬見公民館の屋根雪が落ちて道路を埋めるなど、一時的な交通遮断が続発した。

現場の市道・野地網掛線は車のすれ違いが難しいほど狭く、道路脇は小矢部川側が峡谷のように落ち込む一方、山側は急峻な崖。日常的に災害が危惧され、実際にたびたび雪崩が発生している。昨年にも豪雪となった2月中旬に崩落した雪が道路を埋め、除雪車が入る翌

朝まで車両が通れなくなっていた。今冬も1月から日本海側で記録的な降雪、積雪が相次いでおり、小院瀬見も所により1・5メートルを超えた。道路脇の崖には雪がたまり、地元で懸念が高まっていた矢先に雪崩が起きた。今後も当分は強い寒波が予想され災害の懸念も続くが、住民が最も恐れているのが孤立だ。小院瀬見集落では、野地網掛線から福光温泉橋左岸を起点に田園を回り込むように迂回して小矢部川を渡り、カブツに小矢部川を渡り対岸の網掛に至る野地網掛線と、田園から中根集落跡に至る小院瀬見中根線の2本の市道がある。

このうち住宅が並ぶ集落1998年の水害で一部損壊、未通れす荒廃した小院瀬見橋。中心部を貫く中根線は集落を越えたと除雪が行われず、積雪期間中は通行不能。網掛線は小矢部川に架かる小院瀬見橋が1998年(平成10)年の大規模水害で破損して以来、網掛側への通行は車も歩行者も不能とたまま。このため雪がある間に集落から出る手段は福光温泉橋経由のルートだけとなっている。

15年ほど前に小院瀬見に移住し家族4人で住む西井満理さん(71)は「通れなくなっても、仕方ないと思うだけで慣れっことになってる」とあきらかに境目が地域外へ通学、通勤する子供や住民のことを考える「町などへ出ているときに孤立したら集落のことが心配でたまらなくなる」と。

「各地に「孤立」可能性集落」
求められる「基本策」
小院瀬見のような孤立の可能性のある集落は富山県内をはじめ、全国各地に多数存在する。2005(平成17)年度に中山間地の集落を対象に孤立発生の可能性調査を実施し、その後もフォローアップ調査を行っている内閣府によると、「孤立」は地震や風水害による災害で道路交通による外部からのアクセスが途絶し、人の移動や物資の流通が困難、移動可能となる状態と定義され、2013年度の調査結果では全国の農業集落の3割近くに当たる1万7千212集落が「孤立」の可能性がありとされた。富山県では346集落が「可能性あり」。調査対象全444集落の3割近くに上り、その割合は全国トップレベルだった。南砺市は取材に対して、22年度のデータで72集落を「孤立」の可能性のある集落」とリストアップしていることを明らかにした。市の担当課は「注意喚起のためのリストアップ」に留まり、解消には道路等の整備が欠かせず、毎冬大雪が続く現状を踏まれば今後の施策が求められる。

「お断り」 山里は今年も大雪。1面は雪害に苦しむ地域を特集しました。



2面 DCで意見交換会 福光麻布市びに都内から 被災地支援の新春コンサート

集落出身で今は富山市に住む山口清一さん(84)によると、生家の前を通り網掛に通じる野地網掛線はもとと集落の主幹線道路だった。「この道を通れるなら冬も安心できる」と山口さん。小院瀬見自治会の堀宗夫会長(74)も「小院瀬見は南砺市の「孤立」の可能性がある集落」になっている。安全に暮らせるようにできないものか」と橋の復旧を待ち望む。

「消雪装置」不具合相次ぎ
南砺市山間部では道路の雪を地下水や川水をくみ上げて溶かす消雪装置が多数ある。「復旧は早くも新年度」。装置が設置された路面は傾斜が急峻で、多量に暴風による積雪が多発し、暴風による積雪が多発している。

「消雪装置」不具合相次ぎ
小院瀬見に近い吉見地区でも今冬、主要な生活道路の市道で積雪時に水が出ず、ポンプの不具合が判明。1981(昭和56)年、当時管理していた奥が設置して以来、45年が経過し老朽化していると思われる。多額の予算が投入されている。

「消雪装置」不具合相次ぎ
消雪装置の故障で圧雪状態の市道

